

クローバー通信



女性医師へのメッセージ

神経内科 平田幸一

われわれ、神経内科へ入局される先生方は女性が3割以上で、今年のように入局が全員男性というのは異例といっても過言ではありません。おそらく、女性の医師のパワーに頼ることができなくなったら、われわれ神経内科のみならずわが病院の多くの科で医局運営ができなくなることでしょう。

このような背景から女性医師支援センターは今後さらに重要な意味を持つてくることは当然なのです。実際、産休や短時間勤務など出産する女性医師を支える制度がたくさんできていますので、妊娠、出産をしても辞めずに継続して働ける環境は整ってきています。これらをさらに実効的、かつより良いものにするにはまだまだ努力が必要ですが、臨床各科の部長はかなり前向きにそれを考えておられます。

さて、出産後、医師という仕事をどのように続けてゆくかは大きな問題です。当然これについてはむしろ個人の意識に大きく左右されると思います。お子さんの具合の悪いときの対応など、細かいところまですべて自分のやり方でないと納得できないとなると、結局は仕事を辞めて自分だけで子どもを育てるという結論になってしまうこともあります。女性医師の場合、自分に知識があるだけに、なかなか人任せにできない面もあるようです。将来的には、出産、保育と仕事を両立するための物心の安定的な援助、いざという時の安全の配慮、そして医師として仕事を再開することへ敷居をなくす環境整備を「安心」というかたちで提供できることが必要です。小生はこの「安心」を与えられる環境をさらに充実させるため、女性医師の意見を傾聴しながら、臨床研修センター長という立場からも望月センター長を少しでも支えていけるよう努力したいと思います。

第5回 クローバー交流会の報告

教育支援センター 西山 緑

2013年2月27日(水)女性医師支援センター内でクローバー交流会が開催されました。平日の午後6時からで参加人数が懸念されましたが、医師学生の垣根を越えて、未婚既婚や子どものあるなし関係なく、女性も男性も子どもも多数集まって、本当に良い交流会になったと思います。女性医師支援センターの皆さまに感謝申し上げます。

先輩医師の両立メッセージ「こういうキャリアもあるんだぜ！」をテーマに、基礎医学勤務の私と短時間勤務制度を利用中の眼科の田中智子先生が、自分のキャリアや現在の勤務体制についてワーク・ライフ・バランスの観点からお話ししました。

「女性にとって医師は良い職業か？」と議論されますが、答えは、「Yes」です。医師はいろいろな働き方を提供してくれます。臨床か基礎か、常勤か非常勤か、勤務医か開業医か等々・・・ワーク・ライフ・バランスを保つために様々な選択肢があります。しかもどの道に進んでもやりがいのある仕事ができるのです。

しかし、女性が生き生きと働くには、パートナーである男性の力があってこそ。それは、生活のパートナーである夫でもあり、仕事のパートナーである上司や同僚でもあります。今朝、テレビでは、「お父さん大好き女子高生が増加中」とレポートしていました。今や共働きは当たり前なので、お父さんが育児分担していたことが反映されています。私の家もお父さん大好きでべっぴんの娘がいます。確かに私が家事や仕事をしている間の娘の遊び相手は夫でした。そうこうしているうちにお父さん大好き女子高生の誕生です。私が学会で留守でも、かえって、大喜びしています。母としては若干寂しいですが・・・

